



インテリア新しいうねりの創造
INTERIORS : NEXT WAVE

速報

1995年「JID賞」決まる

- ◎JID賞 大賞 該当者なし
- ◎JID賞 インテリラスペース部門
来間 一三 (㈱竹中工務店)
『鎌倉女子大学 二階堂学舎』
協力賞
丸谷 芳正 (設計工房 Mand M)
『鎌倉女子大学 二階堂学舎のたためる椅子
スモールヴァージョン』
- ◎JID賞 インテリアプロダクト部門 該当者なし
- ◎JID賞 インテリア研究・著作・業績部門
根立 光夫 (㈱リビング・デザインセンター)
『リビングデザインセンター OZONE』

「IFI '95名古屋を目前にして」

JID 理事長

IFI '95名古屋実行委員会委員長 長岡 貞夫

1991年6月の「IFIシカゴ総会」において、「IFI '95 NAGOYA」の開催が決定されて以来、4年余の準備期間を経て、いよいよ開催まで余すところ十数日に迫って来ました。

現在、IFI '95 NAGOYA/世界インテリアデザイン会議運営会では、実行委員会を中心に関係者が精力的に最後の仕上げに取り組んでいます。開催を目前に控えて、ここであらためて、会議の意義と、その骨子に触れ

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1995

8・9

「目次」

特集／「IFI '95名古屋」を目前にして

- 「IFI '95名古屋」を目前にして 1
- ウェルカムパーティ (10月4日 PM 6:30より) 2
- 全員集合!!「JIDハウス」へ 3
- 「国際インテリアデザインフェア」の
見どころ 4
- 参加企画展の見どころ 5
- 10月6日「全体会」追加プログラム 8
- 特別関連事業・学生会イベント 8
- 「世界のインテリアデザイナー作品集」を完成 9
- 〈作品集〉パネル展 IFI '95名古屋へ! 9
- 第2回JID交流・プロトタイプ展 10
- 「IFI '95名古屋」参加登録いまからでも 10
- 「報酬基準改訂」その後の動き 11
- 懸案の「IDカード」を配布 11
- デザイン保護研究会「報告書」最終段階へ 12
- IFI理事会ランス会議報告及び
APSDA 総会準備代表者会議について 12
- 平成7年度・第1回理事会報告 14
- 若園 晃さんを偲ぶ 16
- 中部事業支部の動き 17
- 関西事業支部の動き 17
- 九州事業支部の動き 18
- 新入会員の紹介 19
- 会員の異動 20
- グリーンデザイン・チェックリスト (前編)

ておきたいと思います。

いま、世界はあらゆる分野で、新たなルールづくりが求められている混沌とした状況に直面しているといえましょう。

21世紀を控え、人々のライフスタイルや、社会システムが変化してゆく世界の潮流の中で、インテリアデザインの役割を検証します。

まず、会議プログラムでは、インテリアデザインを透視しながら環境、高齢化、マルチメディアなど今日的課題と、地域と伝統といった切り口で、基調講演と11の分科会でのクロスオーバー的な討議が行われます。

特に今回は、アジアでの初めての会議でもあり、パネリストにはアジア7ヶ国をはじめ、多くの国からの参加があり、様々な領域のスペシャリスト48名によって、国際会議にふさわしいグローバルで多面的な討議と創造的問題提起が期待されます。

事業：交流計画では、4会場に展開する各種展覧会、デザインコンペ、交流ツアー、学生ワークショップ、生活者フォーラムなど、様々なイベントを通じて広範な人々との交流を図ります。

3日間の会議を通して、インテリアデザインによる生活環境の改善と、安全で快適な空間の創造、デザインの啓蒙、普及、デザイナーの質の向上と職能の確立、デザイン教育など、インテリアデザインに関わる各国共通の問題について、国内外の参加者との積極的な情報交換が期待されます。

国際会議で最も重要なことは、人種、言語、歴史、文化などが異なる人々との、又とない出会いです。インテリアデザインという共通項のもと、参加者全員が主役となり、互いにface to faceで、リラックスした交流こそが真の国際会議であるといえましょう。

ホスト役のJIDとして、会期中IFIメンバーや海外デザイナー、またJID各支部から参加するメンバーと賛助会員、関係諸団体との相互の懇親などが、盃を傾けながらカジュアルでアットホームな雰囲気の中で交流ができるよう、JID交流のベースキャンプとなる「JIDハウス」を設けます。

実行委員会では、シンポジウム、展覧会、交流などを通じて、社会に向けて新世紀を展望する「INTERIOR NEXT WAVE」を発進するべく、鋭意準備を進めています。

有意義で楽しい会議になるよう、さらに多くの皆さんの参加を期待しています。

ウェルカムパーティ(10月4日PM6:30より)

名古屋港ポートハウスにて

IFI '95 名古屋運営会事務局長 宇賀 敏夫

いよいよ会議開催まであと十数日、「国際インテリアデザインフェア」1つとっても、先般、メイン展示のグローバルインテリアの参加企業20社との展示概要説明会を終え、それもいまでは最後の仕上げ段階です。

紙面の関係上、イベント全ての概要を紹介することは不可能ですので、来る10月4日(水)に開催の、「ウェルカムパーティー」の展開について触れてみましょう。名古屋国際会議場での初日の分科会終了後、会場を地下鉄日比野駅から約15分、終点駅の名古屋港に移して、夕刻18:30分からウェルカムパーティーが開催されます。

夜のイルミネーションに照らされ、名古屋港を象徴する高く聳える帆船をイメージしたポートビル、水族館、南極観測船「ふじ」、式典会場の「名古屋港ポートハウス」に隣接するガーデン埠頭臨港緑園の遊歩道に並ぶ屋



名古屋港ポートビル

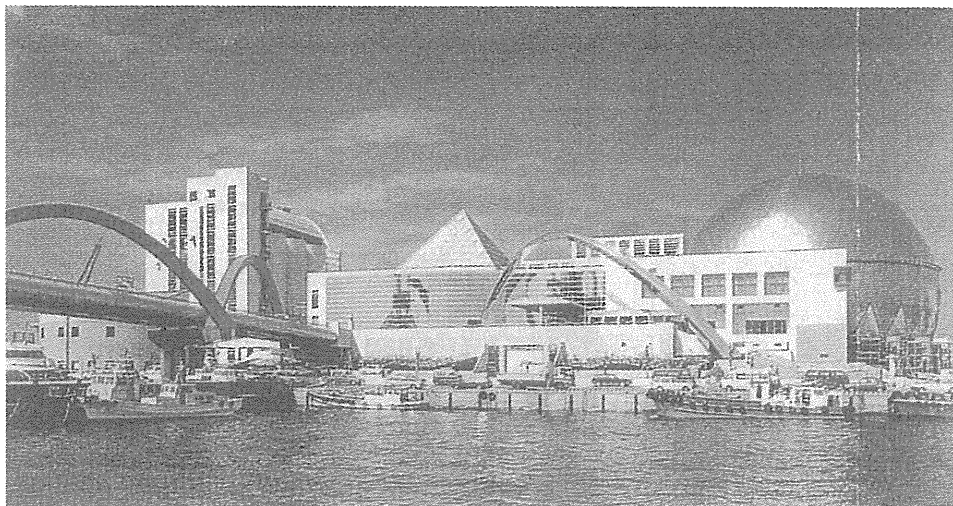
台等、これがウェルカムパーティーのロケーション舞台です。

そこで日本の伝統芸術「歌舞伎」口上で始まり、各国出身のアーティストによる特色あるサウンドの披露も行われます。そして臨港岸壁から豪快に炎を吹く手筒花火ショーを見て頂きます。また、国内外の参加者の談笑風景は、コンパニオンレディがスナップ写真を撮って歩きます。

このウェルカムパーティーは、「世界インテリアデザイン会議」の最大の交流の場として、充分堪能出来ると思います。

パーティーの開始前には、世

界でも珍しい海亀の研究が行われている水族館をぜひご覧ください。日本の海から南極までの5つの海が楽しめます。



名古屋港水族館

全員集合!!「JID ハウス」へ

IFI '95 名古屋交流委員会委員長 安藤 清

IFI 総会、世界インテリアデザイン会議など、公的な計画は、ほぼ固められましたが、一方に、JID 独自の相互交流の場として「JID ハウス」をご用意致しまし

た。ここは昼中のお疲れを、名古屋の夜で癒して頂くための、素晴らしいステージとなります。

場所は名古屋の中心地、堀川にかかる納屋橋のたもとです。1981 年、ご家族で世界一周航海を果たされた、当地ご出身のキャプテン長江裕明氏が、レストランバー「CAPTAIN'S DINER」／船長の台所と銘うって、今年6月にオープンしたお店です。

関係者の方々にご提案申し上げましたら、一発で気に

入って頂き、今号でご披露した次第です。長江キャプテンには、今回のテーマ「NEXT WAVE－新しいうねりの創造」にご賛同頂き、数ヶ国語を友人にボランティアして頂けるとのこと。会期中の10月3、4、5日（3日間）名古屋の夜を心ゆくまでお楽しみ下さい。

なお、JID ハウスに「A. I. A」（アクティブ、インテリア、アソシエーションと称し、10年近い名古屋インテリア関連同士の会）が協賛協力して頂けることに



「JID ハウス」となるCAPTAIN'S DINERのインテリア

なり、皆様の寸志で「2次会」を用意しています。ぜひ、期間中ご参加の皆様お誘い合わせの上、名古屋の夜を盛り上げてください。

先月取り敢えず

「CAPTAIN'S DINER」のコピーリーフレットをお送りしましたが、今号により詳しいリーフレットを同封しました。これをご持参の上、お越してください。皆様、名古屋の「JID ハウス」で待っています。



「JID ハウス」となるCAPTAIN'S DINERのエクステリア

「国際インテリアデザインフェア」の見どころ

IFI '95 名古屋事業委員会委員長 山口 道夫

IFI '95 NAGOYA では、「36」の展示会が開催されます。名古屋国際会議場内と会場外で、約半々の比率で盛り沢山の、しかも内容の密な展示会が開催されますが、これら全てを含めて、「国際インテリアデザインフェ

ア」と呼称しています。

●グローバルインテリア

2階、正面入口を入り、階段を下りて右が、メイン展示の1つ「グローバルインテリア」の会場イベントホールです。内外企業の参加により、複合的な展示によるインテリアの近未来を示唆し、次の時代の潮流を予感させる新しい概念として、グローバルインテリアのタイトルの基に、楽しい展示が展開されます。

エントランスは感覚空間です。音・光・色彩・香り等

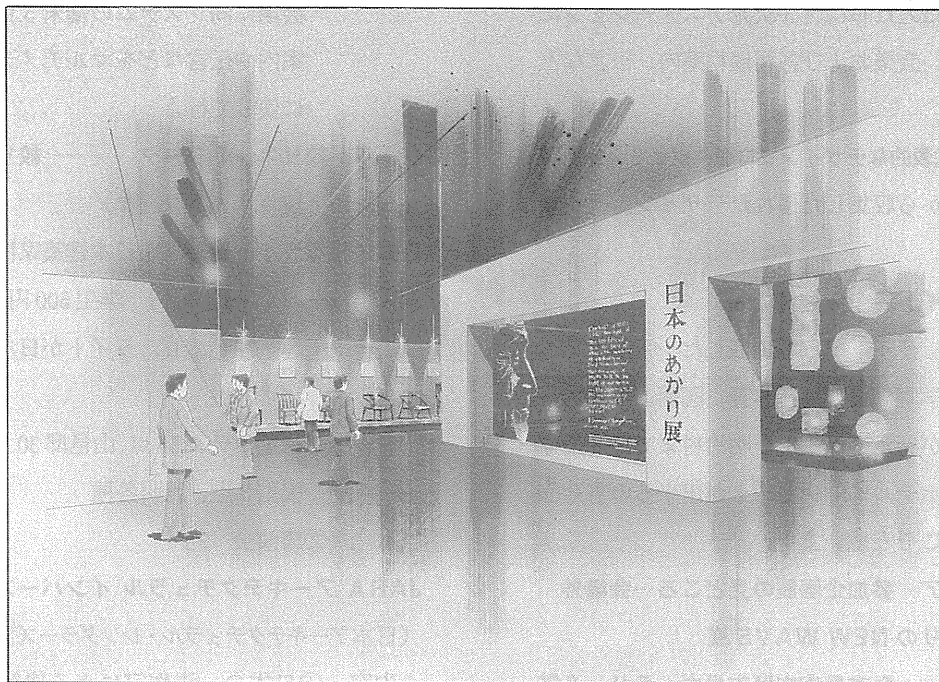
と、オブジェの構成で、人間と物体と感覚の融合した不思議なプロローグ空間を通過します。

メイン会場に入ると、巨大な4面マルチスクリーンが目飛び込んで来ます。ここは、膨大な数のスライドによる、自然の4大元素をモチーフとした、色彩とマテリアルの世界で、世界的なトレンドセッターによる日仏同時発表のインスタレーションが展開されます。

またその周辺には、世界



グローバルインテリアの展示



ジャパンインテリアの展示

の先端を行くインテリアコレクションが展示されます。雑誌やテレビから抜け出した実物による感動的な展示は、専門家も十分に楽しめます。

さらにその周辺には、新しい概念で捉えたインテリアの代表的企業による、最新の思想を背景とした意義深い展示によって、会場全体を盛り上げる予定です。

エキサイティングでビビッドな会場から、インテリアの新しいうねりを感じて頂けるはずです。

● ジャパンインテリア

次はその奥のもう1つのジャパンインテリアの会場白鳥ホールです。

ここでは、日本をテーマとして、心・伝統・歴史・人物の四本柱で結合した、静かで端正な空間が広がります。導入部の土や、絞り染めの布等による「心」の空間を通り、日本人を含む世界の人達に、日本の美学を感じ取って頂きながら、次の伝統のゾーンに歩を進めます。そこには陶磁器、紙、竹、金属等の展開によって、伝統の息吹の確かさで、眼前に日本的な室礼が配置されます。

また、会場周辺には、明治から今日までの、記念すべき「日本の木の椅子」100点余りが取り囲み、改めて1点毎の持つ意味を感じ、次の時代への造形の掛け橋を感じて頂けることでしょう。さらに奥の大きなゾーンでは、人物として「イサムノグチ」の日本的な業績を「アカリ」を中心に展開しています。

ジャパンインテリアは、日本的な昇華の美学の持つ意

味や、今後のインテリアと、そのあり方に対する問いかけの展示会場と言えると思います。

この後は、一旦屋外の空気を吸い、中庭を挟んで回廊の下周辺で展示される学生の提案展「インスタレーション展示」を見た後、向い側・2号館で開催される、「国際コンペ作品展」や多数の「参加企画展」を見て頂くことになります。

JID会員ほか多数の来展を期待してお待ちします。

国際インテリアデザインフェア／参加企画展の見どころ

IFI '95 名古屋事業委員会副委員長 熊谷 正信

「世界インテリアデザイン会議」は、いよいよ開催直前となりました。そこで少しでも多くの会員の方々にご参加頂き、インテリアデザインへの関心を盛り上げて頂きたく、ここでは「国際インテリアデザインフェア／参加企画展」の見どころについてお伝えします。

参加企画展（その他関連事業）では、街中インテリアの合言葉のもとに、企業・行政機関・各種団体・市民グループなどが名古屋国際会議場内（12 イベント）、外（16 イベント）が行われ、来場者を感動と出会いと発見のWAVEに巻き込むことでしょう。

1. デザインフェア 参加企画展の見どころ…会場内

① マルチメディア・インフォメーションシステム

会場内に訪れた人たちに、3次元アニメーションによる会場案内、会議および各種催物案内、伝言などを行います。

②戦後の中部の代表的なデザインプロダクツ…2号館1階
中部産業地域から収集した優れたデザイン製品を初展示。

③日本に残るライト展…2号館2階

建築家F. L. ライトが日本に残した、帝国ホテル、山邑邸、自由学園などの模型写真、図面、照明器具、家具、食器等が展示される他、明治村まで足を伸ばし、直接帝国ホテルに触れることが出来るのも今回の企画なればこそと思います。

2 デザインフェア 参加企画展の見どころ…会場外

①インテリアと絞りのNEW WAVE展

…名古屋市中央区市民ギャラリー8階

地元有松、鳴海、大高の絞りと工芸作家、インテリアデザイナーによる新たな時代への可能性を展示表現。

②ギャラリーデザインウィーク1995…名古屋市内

市内20か所のギャラリーで、インテリアデザインに関係する展覧会が開催され、会議を離れた後に覗かれるのも良いかと思ひます。

“百聞は一見にしかず”是非この機会に名古屋に来てちょおよ”

国際インテリアデザインフェア/参加企画展の全容

●会場内イベント

トータルインテリアキャンペーン

「講演とパネルディスカッション」

(インテリア産業協会中部支部) 10/6

100人参加/関係者のみ

内容: ①講演会

「光るインテリアコーディネーターの容姿」

戦後の中部の代表的なデザインプロダクツ

(デザイン名古屋) 10/4~8

内容: ①デザイン名古屋が収集した、戦後中部のデザインに優れた代表的な製品を初展示

マルチメディア インフォメーション システム

(GROUP MTS) 10/3~8

内容: ①マルチメディア事業を目指す異業種交流グループMTSが、インテリアデザイン会議の

会場に同システムの端末5台を設置し、各種案内や伝言などをマルチメディア技術をフルに使って行う

ワールド絞りネットワーク —— 絞りの新風景 ——

(ワールド絞りネットワーク) 10/4~8

日本に残るライト展 (新日本建築家協会) 10/3~8

入場料一般 1,000円 学生500円

内容: ①建築家F. L. ライトが日本に残した建築のパネル展

帝国ホテル54点、山邑邸30点、自由学園36点、模型3点、照明各種

②講演会

JARA アーキテクチュラル インパースペクティブ

(日本アーキテクチュラル・レンダラーズ協会) 10/4~8

内容: ①日本の一流作家による建築・インテリアのパス展示

百人一首 —— 木のオブジェ展

(インテリアプランナー展) 10/4~8

内容: ①インテリアへの素材感、木における重感を、百人一首のテーマで、インテリアプランナー協会会員等がオブジェを制作し展示

インсталレーション、市民・学生フォーラム、コミュニケーションパーティー

(学生部会イベント)

内容: ①木とダンボールによる未来のインテリアの空間表現

②インテリアデザインのあり方について、グループディスカッションとミニパーティー

JID パネル展「世界のインテリアデザイン作品集パネル展」

(仮称) 10/4~8

新しいガラスのうねり (東海ガラス研究会) 10/4~8

30人参加/入場無料

内容: ①東海地方で活躍する工芸ガラスの作家達の作品展示

IFI '95 NAGOYA — NEXT WAVE ポスター展

10/4~8

21世紀万博PRポスター展

10/4~8

●会場外イベント

第14回ウッディランドフェア

(名古屋営林支局需要開発センター) 10/7・8

ウッディランド名古屋(熱田区西町1-17)052-681-1700

20,000人参加／入場無料

内容：①森のステージ ②ふるりの味 ③木工教室など

暮らしを彩るふるさとのやきもの

(愛知県陶磁資料館)

9/15～3/27

愛知県陶磁資料館(瀬戸市南山口町234) 0561-84-7474

50,000人参加／入場料有料

内容：①県内各産地のやきものと、その製作技法を紹介
幕末から現在の品物250点展示

海を渡ったやきもの展 ―― 名古屋絵付の世界 ――

(愛知県デザインセンター)

愛知県産業貿易館7階 052-231-6351

1,000人参加／無料

内容：①昭和初期頃から現在に至る、そのほとんどを
輸出に依存していた名古屋絵付によるやきもの
を、テーブルコーディネートし、今に蘇らせる

世界公園フェスティバル'95

(世界公園フェスティバル'95実行委員会) 10/1～15

・名古屋会場(栄公園予定地、久屋大通公園、愛知芸
術文化センター) 052-972-9191

・豊橋会場(豊橋公園、豊橋市公会堂)

150万人参加／入場無料

内容：名古屋会場

①世界公園会議

②交流と公園の実験展示

③アーバンナイトページェント

④世界芸能祭 など

内容：豊橋会場

①花文化・花交流展示

②花とくらしのシンポジウム

③フローラルナイトページェント

④パークパフォーマンスフェアなど

デザイン名古屋 ショーウインドコンペ'95

(名古屋市経済局商工部商業課) 9/20～10/31

名古屋市内 052-972-2416

入場無料

内容：①ヤングデザインステージ

②ショーウインド宝探し

③光のファンタジー

尾張・名古屋の職人展

(名古屋市市民局勤労福祉課)

10/6～8

名古屋市中心企業振興会館 第一ファッション展示場

(千種区吹上3-6-3) 052-735-2022

9,000人参加予定／入場無料

内容：①尾張・名古屋地区の職人技による作品の展示、
実演、即売等

自然を楽しむインテリア

(名古屋市農政緑地局東山植物園) 10/3～10/15

東山植物園星ヶ丘門内(千種区東山元町3-70)

入園料 高校生以上 500円

内容：①観葉植物や鉢花、その他自然素材を材料に、室
内を装飾するための楽しいノウハウ見本展示

インテリアと絞りのNEW WAVE展名古屋市民芸術祭'95主催事業

(名古屋市市民局名古屋市文化振興事業団) 10/3～8

名古屋市民ギャラリー8F(中区栄4-1-8)

入場無料

内容：①伝統としての染織、工芸としての硝子、陶芸、
金属、木工、生活としてのインテリア、これ
らのフュージョンによる新たな時代・状況へ
の可能性を展示表現

デザイン列車の運行

内容：①「世界インテリアデザイン会議」の開催を記念す
ると共に、「デザイン都市名古屋」のイメージ
を一層アップし、地下鉄に一層親しみを持っ
て頂く試みとして、名城線において、特別の
デザインで塗装した車両編成(6両)を運行
(平成7年9月1日～平成8年4月まで運行)

IFI '95 NAGOYA-NEXT WAVE ポスター展

(中部クリエイターズクラブ) 7/12～17

栄地下セントラルパーク内・セントラルギャラリー

内容：①世界インテリアデザイン会議のテーマ
「NEXT WAVE」をテーマに、中部地区
で活躍しているグラフィックデザイナーが作
成したポスター55点の展示

ギャラリーデザインウィーク1995(ギャラリーデザインウィーク)

内容：①インテリアデザイン会議開催期間中、デザイ
ンに接点のある展覧会を開催する

20ギャラリー参加目標

A・PANIC展

(名古屋イラストレーターズクラブ、日本広告写真協会中部支部) 10/10～15

名古屋市民ギャラリー(中区役所ビル)

44人参加(NIC22名、APA22名)／入場無料

内容：①イラストと写真のドッキング、実験的な作品

の展示

クラフトデザイン展 NAOGYA 発

(クラフトデザイナー中部) 10/5~11

丸善名古屋栄店 4F ギャラリー

60人参加/入場無料(但し、販売)

内容: ①中部地方のクラフトデザイナー約60名の作品、陶磁器、漆、木工、ガラス、ジュエリー、テキスタイル等展覧会、販売

第40回インテリア織物展示会

(尾州絹化繊織物協同組合) 10/14・15

江南市民文化会館

無料

内容: ①当産地インテリア織物の優秀作品を展示
繊維産業の発展、織物振興を図る目的

第21回カーテン祭り

(尾州絹化繊織物協同組合、江南織物卸商協同組合) 10/14・15

江南市民文化会館

無料

内容: ①当産地主産業として広く紹介し、一般の認識を高める
織物の振興、産地への奉仕を目的とする

ミカワテックスビジョン

10月6日「全体会」追加プログラム 「その時デザイナーはどうするのか」

IFI '95名古屋プログラム委員会副委員長 浅野 盛治

10月6日午前中の全体会に、つぎのプログラムが追加され、午前のプログラムは午後に移されます。

第2次サーキュラーに発表されているプログラムは、主として昨年末検討され、準備されてきたものです。しかし、今年のはじめ、近年まれな都市型の震災が阪神地方に起こり、私達の身近な問題としていろいろなことが、それぞれの分野から語られ、又今も語られています。

プログラム委員会では、これらのことに何も触れずに会議が終わってしまっては、デザイナーとして寂しいことではないか、又海外からの参加者もなんらかの期待を持っているのではないかと考え、その回答として、この「全体会」を計画しました。

この「全体会」の主旨は、阪神大震災とは限りません

が、このような事態に直面したとき、1人のデザイナーとして、それぞれの専門分野から何が出来るか、又何をしなければならないか、これから何をしていけばよいかといった視点から、それぞれの分野の代表選手のお話しをお伺いし、前向きに考えをまとめて行きたいということです。

「全体会」のパネリストは次の方々です。

鬼頭 梓(建築家)

デニス・ハンディ(インテリアデザイナー)

福田 繁雄(グラフィックデザイナー)

夢 童 由里子(人形作家)

諸 星 和 夫(インダストリアルデザイナー)

コーディネーターは、JID 会員の中村隆一さん(京都私立芸術大学教授)です。

なお、デニス・ハンディさんは、次期 IFI 理事長に予定されているアイルランドの方です。

特別関連事業・学生会イベント インスタレーション展示/デザインフォーラムほか

IFI '95名古屋学生会代表 小柳 朝一

学生会主催のイベント企画に対して、推進校9校(専門学校4校、大学5校)の学生64名と教育関係者18名は、10月に向け夏休みを返上して、毎週、部会と委員会



学生会・イベント案内のリーフレット

を開き、参加者を迎える準備に入っています。

イベントの1つ「インスタレーション展示」は8月7日にアドバイス会を行い、9校13棟がエントリーしました。そして、8月末には製作図面提出を行い、より具体化させ、現在追込みに入っています。

「市民・学生デザインフォーラム」は、テーマを「生活革命」と題し、第1部の学生パネラー中心のフォーラムでは、8つの分科会に分かれ、各分科会ごとに県内外学生1名、留学生1名、推進校学生1名のパネラーを予定しています。第2部のゲストパネラーと学生パネラー代表フォーラムでは、ゲストパネラーに内田 繁氏、加藤和雄氏、森山明子氏、伊藤弓子氏（INAX）、行政より1名、海外よりデニス・ハンディ氏（アイルランド）、アンリ・クレー氏（フランス）を予定しています。会場は名古屋国際会議場屋外を中心に、開放感を感じながら討論して頂くよう準備をしております。なお、フォーラムのプログラムは8月中旬に発表する予定です。

「コミュニケーションパーティー」は、秋祭をテーマに、多くの方々とネットワークをつくって頂くよう企画を進めています。「食」に関しては、名古屋の味を皆様に提供出来るよう、色々なアイデアがあるようですが、学生諸氏の手作りですので、何が出てくるのか実際のところ当日まで分かりません。パーティー部会のメンバーは、悩みつつ楽しんでいるようです。

いずれにしても10月開催まで残すところ十数日、最後の工夫といった状況です。広告協賛も仲々厳しい、状況ですが、その分、何とか若い人達が手作りで頑張ってくれそうです。会員の方々のお越しをお待ちしております。

「世界のインテリアデザイナー作品集」を完成

本部・出版委員会委員長 宮城 由紀子

企画から1年6ヵ月をかけ、漸く「世界のインテリアデザイナー作品集」の完成にこぎつけることができました。9月半ば過ぎには、全国の主要書店で一斉に発売されます。

ここに至ることができましたのも、出版委員各位の献身的なボランティアワークと、関係各社の全面的なご協力によるものと感謝申し上げます。



「世界のインテリアデザイナー作品集」のリーフレット

作品集には国内110名、海外36名の作品300数十点が収録されていて、国際色豊かで多様な内容になっています。いままで、あまり知る機会の無かったJID会員の作品を始め、海外のインテリアデザイナー達の幅広い仕事を紹介されています。この本は国内のみならず、広く世界各国で販売される予定ですので、会員の作品を海外にアピールする絶好の機会になるでしょう。

会員の皆様には、近日中に各1冊が無料で配布されますが、会員以外の方々に、ぜひ、積極的にご紹介頂き、この本の販売にご協力くださいますようお願い申し上げます。

〈作品集〉パネル展IFI'95名古屋へ！

本部・出版委員会担当理事

〈パネル展〉実行委員会副委員長 福田 友美

この号がお手元に届く頃には、IFI'95 NAGOYAのプレイベントとして、東京・新宿・OZONEで開催中の「世界のインテリアデザイナー作品集／パネル展」は、すでに終了していることと思います。

しかし、本号でご案内したいのは、このOZONEパネル展のパネルの内、個人分の130余点を「IFI'95

NAGOYA」の会場で、そっくり展示できることになったということです。

もともと、IFI '95 の運営会が、第2次サーキュラーで皆様に呼びかけ、〈会議登録参加者パネル展〉の中核にと企画したものを、当初の企画通り実現できるようになったことを、改めてご報告し、関係して下さった方々と共に喜びたいと思います。

この〈参加者パネル展〉は、IFI '95 名古屋実行委員会の事業委員会（山口道夫委員長）が担当しておりますので、この件に関するお問い合わせは、委員長又は私（同委員会パネル展担当）までお寄せ下さい。

第2回 JID 交流・プロトタイプ展 「木工と漆」和合・融合展

本部・展覧会委員会副委員長 鈴木 恵三

昨年に引き続いて、2回目の飛騨高山木工連合会との共催、展覧会です。

今回のテーマは、「木工と漆」。高山の地場産業のひとつでもある春慶塗などの漆を取り入れた木工デザインの提案です。

JID の誇る、実力派トップデザイナー 10 名を指名させて頂き、新作デザインの提案を受けました。

- ・井 上 昇 …………… 椅子
- ・今 崎 務 …………… ソファ
- ・岩 倉 榮 利 …………… 椅子
- ・喜 多 俊 之 …………… 照明
- ・木 村 戦太郎 …………… 椅子
- ・吉 良 ヒロノブ …………… 椅子
- ・坂 本 和 正 …………… 便 座
- ・清 水 忠 男 …………… 照明
- ・寺 原 芳 彦 …………… 花 器
- ・中 田 重 克 …………… 照明

以上 10 名のデザインを、飛騨高山木工連合会のメーカー各社が担当、プロトタイプづくりが進行しています。時間の無い中、10 人のデザイナーの皆さんと、メーカー各社及び開発担当者との交流が図られています。

作品は、以下の 2 ヶ所で展示、発表されます。

- 10月5日（木）

IFI '95 名古屋／視察ツアー・伝統的な木の技術〈高山

山〉で展示

場所：市内・桜山八幡宮参集殿

- 10月8日（日）～15日（日）

飛騨高山グッドファニチャー展

場所：市内・旧和井田製作所

「IFI '95 名古屋」参加登録いまからでも

理事・事務局長 森谷 延周

あと半月後に迫った「IFI '95 名古屋／世界インテリアデザイン会議」、日本への誘致に成功し、アジアで初めて、日本で初めてと唱え、今日まで引っ張ってきました。

「会議への参加登録を募る」という反面には、会議の目的・テーマ・プログラム・関連イベントなどが明確になり、興味が湧いて、魅力が伝わらないと、参加してみようということになりません。

その点、今回の大型イベントでは、初めてという中で、走りながら考えたところも多分にあり、十分に情報伝達が行き届かなかったかも知れません。また、今日の経済状況という制約も大きな要素です。

しかし、運営会や実行委員会は、このジレンマの中で、できる限りふさわしい情報を伝え、より多くの方々に参加して頂きたいという努力を重ねております。

実際には JID の場合、4 事業支部毎に、参加登録を内外に呼びかけてきましたが、当初の内は、まだ先のことで予定が立たないという声が多くありました。確かにその通りだと思いますが、それも目前となりました。

私達はまもなく 21 世紀を迎えるわけですが、インテリアの仕事に携わっていく上で、今回の大型イベントは、視点や認識を新たにしていく、又とない良い機会と思います。

「会議」だけでなく、関連イベントや「JID ハウス」での会員交流もあります。参加登録はいまからでも間に合います。1 人でも多くの方の参加を願っています。

「報酬基準改訂」その後の動き

報酬基準委員会委員長 長堀 映司

先般、当委員会がまとめた「報酬基準」の改訂版は印刷する直前になって、公正取引委員会の「独占禁止法」に触れることが分かり、一時作業を中止し、いろいろな方々のアドバイスを頂きながら、解決方法を検討してまいりました。

「公取」が問題にしている事柄は多岐に亘っていますが、一番の問題は、事業者団体（JID）自らが、報酬について最低料金の設定や、平均的料金を決めて会員に配布するのは、カルテルにあたり、「独禁法」に違反するとの見解でした。

従って最終的には法律の分野に入って来ましたので、委員会だけでは対応出来ず、「独禁法」に詳しい弁護士に相談した方が良いのではないかとということになりました。

そして過日、事務局長から弁護士の紹介を受け、白石担当理事、森谷事務局長と私の3名で先方の事務所にお伺いし、アドバイスを受けてまいりました。

弁護士との話し合いでは、物を売る商売なら「独禁法」もわかるが、設計のようなソフトを売る商売が同じ扱いを受けたり、いくら支払えばよいのかといった解りにくい設計報酬などは、依頼主に対して、基準を示す社会的役割もあるのではないかと、との話も出ましたが、公取は「報酬基準」そのものを作ること自体、好ましくないとの姿勢をとっているため、委員会としては苦慮しております。

弁護士にもこの問題の解決方法を研究して頂くようお願いいたしましたが、JIDとして、一つの区切りをつけるための方針を決める必要があり、8月22日（火）に長岡理事長、泉副理事長、白石担当理事、など関係者6～7名に集まって頂き討議することになりました。

委員会としては、そこで決まった方針を基に、出来るだけ早く完成させたいと考えております。会員の皆様には発行が大変遅れ申し訳ございませんが、今しばらくご猶予を頂きたくお願い申し上げます。



IDカードの製作例／実物大

懸案の「IDカード」を配布

本部・総務委員会委員長 秋山 修治

去る7月中旬、会員各位にお知らせいたしました「IDカード」がようやく完成、本部事務局が新宿へ移転したことに伴う各種表記変更を機会に、名誉会員、正会員全員に配布いたしました。このカードの機能は、JIDの会員である「証し」の機能がまず第一です。国際化に合わせて邦文・英文の併記とし、海外での会員の立場を伝える役目も果せると思います。また、ここ数年発行されていなかった携帯用会員証としての機能と、各種会合における名札としての機能などを併せ持ったものです。

従って今後は、協会の開催する総会、パーティ、見学会などの催しには必ずご持参、佩用して頂きたいと思えます。佩用の際は、カード上部の穴に同封のクリップを通して用います。これまでにIDカードをご購入された方は、そのクリップがそのまま使えます。

なお、今回、IDカードが配布されなかった方は、会員名簿に写真が未掲載で、しかもIDカード用の所定の写真が送付されなかった方です。その方々については、写真の提出が有り次第、順次製作いたしますので、至急本部事務局宛送付してください。

なお、「会員番号」の表記については、機械化に合わせて、今後は、すべて4桁表記に統一していくことにい

たしましたので、ご了承のほどお願いいたします。

デザイン保護研究会「報告書」最終段階へ

デザイン保護委員会委員長 井上 昇

日本デザイン団体協議会（通称デザイン8団体）合同の“デザインを著作権として認めて頂くためのデザイン保護研究会”は、去る8月10日で20回目になりました。文化庁・著作権審議会・第1小委員会に、再度提出する2回目の「要望書」をバックアップするための資料集、「報告書」も、編集の最終段階を迎え、10月1日の「デザインの日」までに完成させようと追い込みに入っています。

産業等の空洞化が指摘される中で、日本もアメリカのように、知的所有権が我々デザイナーにとっても、収入源の大きな柱になると予測されます。

その中で、大きな経費負担がかからず、かつ現在、未保護となっているデザイン分野及び領域をカバーするには、著作権が有効との認識に立ち、25年振りに訪れた著作権改正期に合わせ、これまでに勉強会及び講演会、実態調査のためのアンケート等をやってきました。

美術と応用美術（デザインという言葉がまだ法律上認められていない）という時代錯誤の認識を改めてもらうべく活動を行っていますが、今後とも皆様のご理解とご

支援のほどよろしくお願い申し上げます。

IFI 理事会ランス会議報告及び APSDA 総会準備代表者会議について

IFI 理事 中川 帛子

●IFI 理事会ランス会議

昨年10月のIFI名古屋理事会後の今年6月初旬、はじめての全員出席理事会が、パリの北東120キロにあるランス市の郊外で開催されました。

この間、理事長、前及び次期理事長等は、数回アムステルダム本部で小会議を開き、私達はFAXや手紙の参加で対応、今秋の名古屋総会への、提案議題の検討を続けてきました。

ランス会議終了後、「IFI '95名古屋」キャンペーンのため、北欧5カ国デザイナー協会理事長会議に出席しました。この会議にはノルウェー、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、アイスランド5カ国の協会が集まり、情報交換、共同事業提案や実行の相談、親睦を兼ね毎年行われる由、今年はヘルシンキの対岸にある、ロシアから独立して5年のエストニアの協会が招待されていました。西欧へ仲間入りを果たした若いデザイナー協会で、懸命の協会作りの最中ですが、世界中からインテリアデザイナーが集まる国際会議に参加して、世界の情



「北欧5ヶ国会議」ヘルシンキにて、左側2人がエストニアのデザイナー（10月来日予定）



IFI ランス理事会／ブドー酒を絞る工場の中を貸りて行われた会議風景。中休みの一時（筆者写す）

報に接したいが、厳しい経済状況下で、大変難しいと眉を曇らせていました。

現在、エストニアの協会は、IFI の準会員に応募中で、名古屋総会に出席できなければ、1997 年まで持ち越しですが、私の帰国後、会議参加費用のスポンサーが見つかったので、名古屋に参加出来ると喜びの FAX をもらいました。名古屋ご参加の諸兄弟には、ぜひ親しく交流して頂きたいと思います。

本題に戻り、IFI 理事会の報告をいたします。今秋の名古屋総会で提案される最大の議題は、理事会の構成メンバーを、これまでの会員団体からの指名を受けた候補者を総会で投票決定するのではなく、ヨーロッパ、アジアといった地域別から指名を受けた候補者（1 名）を総会で承認する言わば地域代表制理事会の提案です。

ご承知のように、EU や NAFTA 等の世界経済の枠組みが動いている国に属するデザイナー団体は、自らの職能を守るため、いち早くそうした経済圏の中で組織を作り、活発に活動を始めており、IFI に対しても地域の利害を代弁するために、理事の派遣を要請しておりました。これを動機に理事会は、この問題を検討、事前に会員団体の理事長に書簡を送り、地域代表理事制の可能性を探り、大方の賛同が得られたので、名古屋総会に提案することになりました。

アジア地域では現在、韓国、インドネシア、マレーシア、オーストラリア、日本の 5 カ国が会員ですが、名古

屋総会で、新たにインド、香港、タイが会員に加わる予定で、ヨーロッパに次ぐ地域構成になります。IFI とは別の目的で、アジア太平洋地域に組織され、JID を含む APSDA メンバー団体の半分以上が、IFI の会員に加わる現状です。

地域代表理事制が名古屋総会で承認になれば、これまでアジアの IFI 会員間の正式な連絡会議等を持たなかった JID も、既に理事を送り出している IFI 加盟先輩団体として、早急に話し合いや交渉の場を設ける必要があると考えま

す。

第 2 の名古屋総会提案事項は、IFI 本部に集積する膨大な資料や情報を、IFI 会員団体の会員個人にも、情報提供サービスするシステムの提案です。これまでも個人デザイナーから、直接事務局に情報提供の要請があり、その都度会員団体を通じて対応をしてくれています。

現在、IFI の会員は団体ですが、会員団体が対応しきれない国際情報の提供を、会員団体に代わって、会員団体の個人会員に、会員制による有料の情報サービスを行うというシステムです。

一方、IFI 事務局は、名古屋総会で、季刊誌 “i” を発表、これが創刊号になります。又近日中に “i” の講読案内と申込書が皆様のお手元に届く予定です。1 人でも多くご購入下さいますようお願い申し上げます。

● APSDA 総会準備代表者会議

「IFI '95 名古屋」開催のため、総会の開催を 1 年先に繰り延べられた APSDA 総会の準備代表者会議が「IFI '95 名古屋」の終了後、現地で開催されます。日本商環境設計家協会（JCD）が主催団体ですが、日本での開催なので、当然 JID も協力要請を受けており、本部・国際委員会を中心に対応してまいります。IFI の地域代表理事移行と APSDA 会員 IFI 加盟増加は、アジア地域のデザイナー協会間の交流を促進するものと期待されます。

【 平成7年度・第1回理事会報告 】

①会議名：平成7年度・第1回理事会

②日 時：平成7年5月26日（金）13：30～15：15

③場 所：(株)日本インテリアデザイナー協会

本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1

新宿パークタワー8F

④出席者：理事総数15名中（本人出席13名）

（理事長）長岡貞夫

（副理事長）泉 修二

（理 事）浅田弘之、浅野盛治、宇賀敏夫

川上信二、小坂希八郎、白石勝彦

中川千年、福田友美、山口道夫

森谷延周（事務局長）

（委任状）栢原秀榮、清水忠男

（監 事）榎田 均、金子誠之助

⑤議 案

I. 議 案

第1号議案 人事承認の件

1. 第17回IFI総会（名古屋）派遣人事の件

2. IFI理事立候補人事の件

3. 商施連役員・代議員人事の件

4. 選考委員改選に伴う選挙管理委員長人事の件

第2号議案 後援・協賛名義承認の件

第3号議案 会員入退会承認の件

第4号議案 議事録署名人選任の件

II. 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

(2) 第27回通常総会ほか進行予定

(3) 平成6年度会計監査報告

(4) 平成6年度権利停止予定者

(5) 業務委託契約関係

(6) その他

⑥議 事

森谷事務局長より「理事総数15名中、本人出席13名、委任状2名で本理事会は成立した」旨報告。引続き、長岡理事長が議長となり議事に入った。

I. 議 案

第1号議案 人事承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は、資料に基づき、

1. 第17回IFI総会（名古屋）派遣人事（泉 修二、

中川千早、小宮容一）

2. IFI理事立候補人事（中川帛子）

3. 商施連役員・代議員人事

役 員：片谷克也、峰尾 武
代議員：浅野盛治、大溝 浩、片谷克也、
齐藤武行、中川誠一、峰尾 武

4. 選考委員改選に伴う選挙管理委員長人事（今井 滋）について説明した。議長は承認を諮り、異議なく承認された。

第2号議案 後援・協賛名義承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は、下記5件について説明した。議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◎「国際家具デザインフェア旭川'96」 後援

1995年6月1日（木）～1996年7月7日（日）

主催 国際家具デザインフェア旭川開催委員会

◎平成7年度東京支部照明フォーラム 協賛

「共生の照明デザイン」

1995年6月22日（木）

主催 (株)照明学会 東京支部

◎「第40回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋'95」 協賛

1995年9月7日（木）～9日（土）

主催 (株)ビジネスガイド社

◎「第14回インターナショナル・ギフト・ショー西日本・秋'95」 協賛

1995年9月19日（火）～20日（水）

主催 (株)ビジネスガイド社

◎「'96 GREEN DESIGNING IN YAMAGATA」 協賛

1995年6月1日（木）～1996年4月

主催 山形県グリーンデザイン実行委員会

第3号議案 会員入退会承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は下記12件について説明した。議長は、承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

入会 正会員（5件）

氏 名	支部	保 証 推 薦 人
林 柳 江	関東	白石 勝彦・田島 憲悟
齋 藤 裕 子	関東	白石 勝彦・日方 和城
大 淵 澄 夫	関東	長岡 貞夫・竹沢 吾郎
ペリー 史 子	関西	浅田 弘之・館野 羊一
信 夫 正 己	関東	鈴木 信夫・長岡 貞夫

入会 賛助会員（1件）

社 名	支部	紹介者
社団法人 商業施設技術団体連合会	関東	事務局扱い

退会 正会員（3件）

氏 名	支部
片 柳 和 男	関東
吉 田 富 一	関東
楨 原 久 恵	関西

退会 賛助会員（3件）

社 名	支部
デントコーポレーション	関東
(株)三装	関東
(株)くろがね工作所	関東

第4号議案 議事録署名人選任の件（2名）

議長は、浅田弘之、浅野盛治両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

議長は、各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、本部事務局については事務局長に活動に関する報告を求め、それぞれが資料を基に報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

●関東事業支部（浅野）

JID ドイツ視察研修ツアー（3月19～26日参加者30名）及び、恵比寿ガーデンプレイス見学会（5月17日参加者40名）の開催などを中心に報告。

●中部事業支部（宇賀）

支部総会を5月14日に開催、「IFI'95名古屋」に支部会員全員参加の決議を行ったことを中心に報告。

●関西事業支部（栢原）

栢原担当理事委任出席のため、浅田理事が代理報告。各委員会の活動状況のほか、5月22日開催の支部総会（28名出席）などについて報告。

●九州事業支部（中川・千）

支部総会を5月13日に開催したこと及び、支部

の事業費総額に対して事業補助費が僅少であり、今後の検討を要望したいとした。

●選考委員会（浅野）

すでに、関係者へ1995年JID賞公募要項を配布済、応募PRを望みたい。また応募作品のスライド映写会を、各支部持ち回りで実施したい旨報告。

●総務委員会（森谷）

特に大きな進展は無い旨報告。

●組織委員会（浅田）

会員拡充に関して支部別目標数を設定、これを基に協力を求めるほか、名誉会員からの会費徴収が話題となっている旨報告。

●国際委員会（中川・帛）

6月8日～11日、フランス・パリにてIFI理事会が開催されるので、中川理事出席予定。IFI'95名古屋に関する状況報告と総会準備を話題にしたい旨報告。

●交流委員会（小坂）

特に大きな進展は無い旨報告。

●広報委員会（川上）

特に大きな進展は無い旨報告。

●出版委員会（福田）

「世界のインテリアデザイナー作品集」について、掲載者増による増ページ、広告取得目標の達成度及び、「IFI'95名古屋」のプレミアム内定などを報告。なお、発売は9月初旬の予定。

●教育・研究委員会（清水）

清水担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

「DESIGNERS AID 1995」に関して、関係者による相互協力が実り成功した。詳細はJID NEWS5・6月号に掲載する旨報告。

なお、「登録研究」に関する件は、別添の資料により示した。

●展覧会委員会（山口）

「木工と漆」の和合・融合展の今秋開催について、その後の進展状況と業務委託契約書の準備などを報告。

●報酬基準委員会（白石）

公正取引委員会の意向を踏まえて、再改訂の原案を作成中である旨報告。

●デザイン保護委員会（泉）

デザインを著作権とする「要望書」及び、デザイン8団体によるデザイン保護委員会「報告書」作成を継続している旨報告。

●事業委員会（長岡）

総会後に始動させたい旨報告。

●IFI'95委員会（長岡）

「IFI'95名古屋」の会員参加予定を打診するため、参加アンケートを実施、その結果と目標数などについて報告。また、JIDとしての団体予約数を300～350人に設定。討議の上、理事会として了承した。

(2) 第27回通常総会ほか進行予定

本日午前中に開催された支部長・委員長合同会議の報告、理事会後に開催される第27回通常総会、関東事業支部第2回支部総会並びに、懇親パーティーなど一連の予定を報告。

(3) 平成6年度会計監査報告

榎田、金子両監事を代表して金子監事より、4月21日実施の監査結果について、帳簿並びに関係書類の正確性を確認したこと、収支決算書、財産目録と会計諸帳簿の記載とが符号し、法人の収支状況並びに財政状況を正しく示している旨報告。

(4) 平成6年度権利停止予定者

作成した資料に基づき、平成6年度年会費未納による権利停止予定者、40名、5社について報告。

(5) 業務委託契約関係

関西事業支部の業務委託先、(財)大阪デザインセンター及び、当協会の会計業務委託先、三宅会計事務所との委託業務満了に伴い、平成7年4月1日より、前者は平成9年3月31日までの契約書を示し報告。

(6) その他

●訃報 若園 晃（名誉会員）

平成7年5月21日逝去 享年71才

●通産省異動人事

中西 英夫

（新）貿易局総務課 検査デザイン行政室長

（旧）資源エネルギー庁石炭部海外炭対策室長

樋口 勉

（新）石油公団モスクワ事務所長

（旧）貿易局総務課 検査デザイン行政室長

●阪神・淡路大震災義援金

追加分56,000円を5月19日関西事業支部より中央共同募金会へ、従って合計金額は764,112円となった。

●JID NEWS 5・6月号発行予定 6月30日（金）

●次回理事会開催予定（'95第2回）

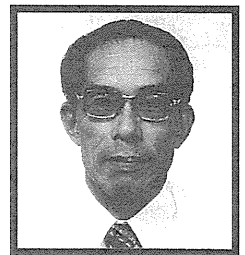
平成7年7月26日（水）

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれ了承した。

若園 晃さんを偲ぶ

中部事業支部会員 林 寅正

若園さんが亡くなったと聞き、一瞬“どうしたの”と暗然たさざるを得なかった。いつもオールバックの髪形に蝶ネクタイ、濃紺の背広というダンディな出で立ちだった。



若園さんは、スウェーデン国立芸術大学に、1959年から1年間JETROから留学したことや、私が深く師事した愛知県工芸指導所の初代所長であった故・斉藤信治先生と若園さんが、又、商工省の工芸指導所時代からのつながりのある方だったとのことで、この2つの糸で若園さんと私は知り合い、JIDでは同じ会員として、支部運営のことについてよく話し合ったものである。

若園さんは愛知県のデザイン行政を基として、グラフィック関係、トータルインテリアのこと等、多方面に亘って深い見識を持っていた。

中でも1974年に、愛知県デザインセンターが設立され、デザイン主幹となって産業デザイン情報の提供、セミナーの開催等と共に、デザイン団体との共催による企画展等多くを手がけ、JID中部事業支部もここでよく世話になったものだ。又、今は取り払われて無いが、展示場内相当面積に、ヨーロッパの居間、食堂等のモデルルームを設置され、優れた海外収集品の家具、照明器具ファブリックスから食器までがセッティングされて、素晴らしいインテリアのトータル化が若園さん主導のもとに演出されていた。それは20年近く前に今、企業がつくるそれよりも、数歩前に行く事例を一般に認識させたものだった。

こうした愛知県におけるデザイン行政の中心的役割を果たしつつ、又、JIDにも沢山の助言をしてくださった若園さんは、ただただデザインの発展に全力疾走をしていたのではないかと思います。

今年の2月、ある会合で一緒になったとき、彼は最後に若いデザイナーへの一言メッセージを問われ、“自己のセンスを輝かしきものにして頂きたい、そうすれば自分で反省もし、人の物を見るでしょうし、又、習うでしょうし”と言っていた。その若園さんも、私にとって今は忘れられない思い出の人となってしまった。(享年71才)

中部事業支部の動き

中部事業支部支部長 安藤 清

いよいよ「IFI '95名古屋／世界インテリアデザイン会議」のカウントダウンも目前に迫り、何かと中部事業支部も大波の真只中にあり二度と無いこのチャンスを生かすべく支部会員一丸となり準備を押し進めています。

各人、各団体、企業、行政など、多くの皆様方のご協力の頂点で、始めてこのようなイベントが実行出来ることを改めて認識しています。

プロローグとして、7月には名古屋の中心、セントラルギャラリーで、中部クリエイターズクラブの会員皆様のご協力により「NEXT WAVE—新しいうねりの創造」をテーマに、イメージポスターの競作、57点を展示、市民に大きくアピールして頂きました。

また、中部デザイン団体協議会15団体の会員の方々のコンペにより、地下鉄車輻のペイント列車を「IFI '95名古屋」に合わせ、直前の9月より来年の4月まで、デザイン列車として全国で初めて運行されます。当選案は中部クリエイターズクラブのお2人に決定し、さすがグラフィックのプロ集団の面目躍如たるものです。

ぜひ当列車で、会場へご参画願ひ、街中インテリアデザイン一色の名古屋へ参集頂き、きびしい時節柄の一時を充電により機会と捉え、会議、国際インテリアデザインフェア双方盛り上げて頂くことを切にお願いいたします。

関西事業支部の動き

関西事業支部支部長 千田 要宗

IFIに向けて、いよいよカウントダウンの期になって来た。関西事業支部では、小宮容一IFI委員長を中心に、3月16日広島、3月17日大阪と説明会を催し、盛り上りに大きな成果をもたらした。しかし残念ながら「IFI '95名古屋」認知度は、必ずしも高いものではない。そこで7月3日、賛助会員の皆様へのIFIご案内も兼ね、「賛助会員の皆様との意見交換会及び懇親会」を開催した。

予てより、野原委員長はじめ組織委員会では、賛助会員のメリットを見い出せる企画を計画、京都の夏の風物詩である鴨川新三浦の「床」で意見交換が行われた。当日は雨のため、部屋の中になってしまったが、数々のご提案もあり、意義深い集いになった。今後は、会員及び賛助会員の相互メリットを導ける活動を、積極的に推進して行きたいとのことになった。

展覧会委員会では、展覧会開催に向けてのミーティングが、7月13日に行われた。当初は10月の「IFI '95名



鴨川新浦の「床」のあちこちで盛り上りました。

古屋」に照準を合わせた計画であったが、日程的に厳しい状況であるとの見方から、来年3月を目標に、須川武博委員長により企画中である。JIDは言うまでもなく、デザイナーの集りであり、展覧会の開催は発表の機会として極めて重要であります。今後の委員会の活動を会員の皆様のアグレッシブな行動で、支えて頂きたいと存じます。

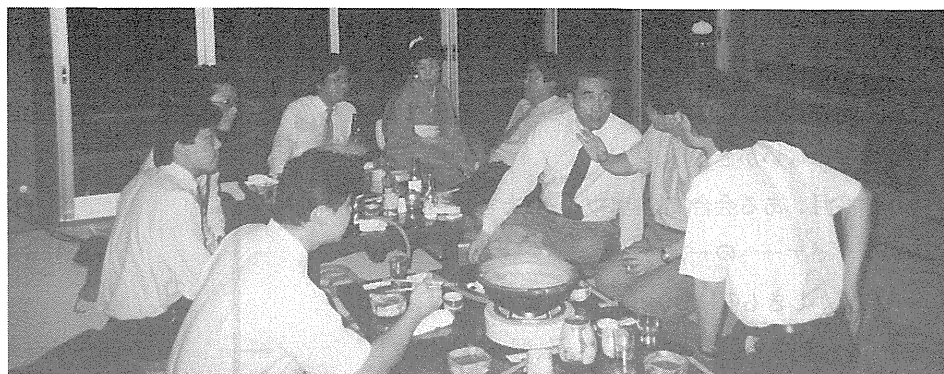
当ニュースでもお馴染みとなった交流委員会の、「JID 倶楽部 KANSAI」では、6月14日、小川家具製作所様の工場で、特注家具組合の青年部の皆様と特注家具の状況を踏まえ、メーカーサイドからの質問やデザイナーサイドからの提案等、フォーラムのように熱い論議が交わされた。JIDの人達の家具好きが感じられ、45名参加の楽しい夜であった。

九州事業支部の動き

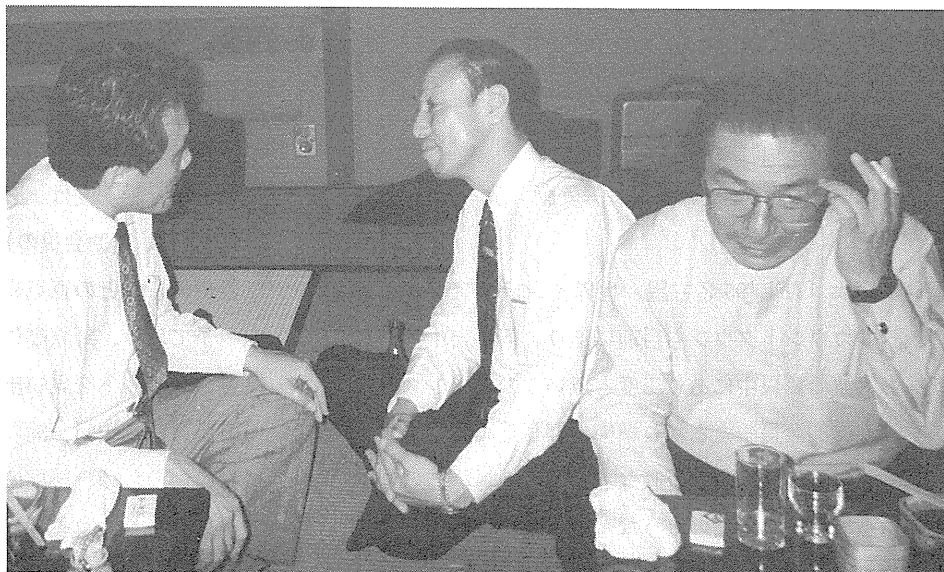
九州事業支部支部長 鐘ヶ江 茂則

九州では9月に入ってアジアマウンスが始まる。子供の交流から各都市間の問題、そしてアジアの文化交流として、一大イベントが行われる。九州はモンゴロイド（黄色）だけではなくネグロイド（黒色）コーカソイド（白色）、こうした人類の進化によるアジア新人種を生みだそうとしている。（チョット大げさかな）そしてそのように動いているのが見えるところである。

ところで支部の組織委員会が進めている1人1人運動が効を成し、新会員の急増も喜ばしい。支部の動力は、会員間の認知から始まり交流へ、そして相互理解へと進んでいくもので、今その一つとして、会員の自分史なり、



「賛助会員の皆様と意見交換・懇親を深める会」



あちこちで腰をすえて

モノ創りなりを例会の折りに、1人30分程度で毎回2回のトーキングを行っている。

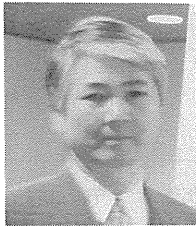
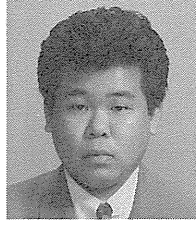
「ダレ」はどこの貴公子で、今何を追っかけているのか、繁殖の自然性が薄れている今日、「いつ」「ダレ」を交配すればどのようなものを生むことが出来るか、またそのとき、まわりとの関わりはどうなったか等、話しは新たな展開を呼び、続きさえ求められることとなる。次は彼の話を聞くのが楽しみと、出席者も多くなって来ている。また、新たな事業が生じた場合も、誰れと組んでどのような形にしていこうかと、自分の仕事と範囲も広がりを持つことも可能となり、共同事業の始まりとなる。出来るだけ入会歴の浅い会員の方から始めているため、一廻りするには2年以上かかりそうであり、また今まであまり出席できなかった人も、マイトークだけは、繰り合わせ出席してほしいとお願いしている。

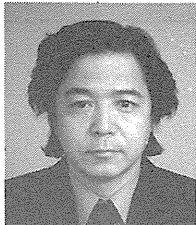
来年度は支部役員の改選があり、その準備も始めている。来期は、九州新人種に依る支部活動が見られるかもしれない。ご期待を乞う。

〔 新 入 会 員 の 紹 介 〕

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
たか はし よし み 高 橋 吉 美 会員番号 1105 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	DECO WORKS デコワークス 岐阜県安八郡墨俣法蔵寺 1090 〒503-01 TEL・FAX 0584-62-3833 岐阜県羽島市正木町新井 543-3 〒501-62 TEL・FAX 058-391-7662 榎田 均・小玉 靖子
に べ せい じ 二 部 誠 治 会員番号 1106 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)ニベ アンド アソシエイツ 東京都新宿区下落合 3-17-40 目白ハイツ 406 〒161 TEL 03-3954-6490 FAX 03-3952-0662 東京都八王子市南陽台 2-3-6 〒192-03 TEL・FAX 0426-76-5540 太田 明子・山田 健一郎
お がわ ちか こ 小 川 千賀子 会員番号 1107 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)コスモス モア 東京都港区海岸 3-9-15 Loop-X ビル 4F 〒108 TEL 03-5440-4190 FAX 03-5440-4199 埼玉県川口市中青木 3-1-16-622 TEL・FAX 048-258-0062 森谷 延周・小玉 靖子
よし もと こう いち 吉 本 光 一 会員番号 1108 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	DEEP 建築空間設計事務所 高知県幡多郡大方町下田の口 345 〒789-19 TEL・FAX 0880-43-3973 同 上 森谷 延周・福田 友美
わた なべ かず こ 渡 辺 和 子 会員番号 1109 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株)ダンインテリア 東京都渋谷区代々木 2-12-1 記録映画社ビル 〒151 TEL 03-3370-2228 FAX 03-3370-2230 千葉県千葉市稲毛区小中台町 1546-1 稲毛効イマツショウ A-216 〒263 TEL・FAX 043-275-0341 森谷 延周・福田 友美

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
ひょう ご ゆき お 兵 後 幸 於 会員番号 1110 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	ザ・サンタバタ企画室 兵庫県芦屋市平田北町4-10 〒659 TEL 0797-32-5115 FAX 0797-32-5110 兵庫県西宮市枝川町5-31-106 〒663 TEL・FAX 0798-40-8346 野原 建広・山田 健一郎

[会 員 の 異 動]

●ご面倒でも1995～1996年版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正下さい。

●正会員

会 員 名	異 動 事 項	新
五百蔵 祐 一 (関東 P49)	自宅移転	千葉県柏市東中新宿1-13-5 〒277
大久保 道 治 (関東 P60)	自宅・ 事務所移転	東京都足立区西新井栄町3-1-1-715 アーバンライフ西新井 〒123 TEL 03-3840-2008 FAX 03-3840-3298
小笠原 紀 男 (関東 P64)	FAX 専用電話	FAX 0557-68-5024
高 石 芳 子 (関東 P94)	自宅移転	埼玉県大宮市仲町3-101-1 ラ・ムエート大宮 602 〒330 TEL・FAX 048-649-2690
鳥 場 淑 高 (関東 P103)	事務所移転	東京都大田区雪谷大塚町11-9 ストークストラダ雪谷 703 〒145 TEL・FAX 03-3727-6550
中 林 茂 夫 (関東 P108)	事務所移転	東京都渋谷区神宮前2-19-16 港ビル 401 〒150 TEL・FAX 03-3470-5352
水 野 信 策 (関東 P128)	自宅移転	東京都千代田区一番町2-1-405 〒102 TEL・FAX 03-3221-1179

●賛助会員

会 員 名	異 動 事 項	新
協同商事株式会社 (賛助 P207)	移転	大阪府大阪市中央区谷町2-3-2 森居幸ビル7F 〒540 TEL 06-947-1110 FAX 06-947-1467
株式会社日総建 (賛助 P219)	担当者	中川 達夫

会 員 名	異 動 事 項	新
ウィルクハーン株式会社 (賛助 P206)	社名及び担当者	ウィルクハーン・ジャパン株式会社 小野寺 俊英

ICS カレッジ オフ アーツ

(会員番号3017)

〒152 東京都目黒区柿の木坂1-5-6
☎03-5701-2211 FAX 03-5701-2212

事務局 企画室長 永島 章

アスワン 株式会社

(会員番号3006)

〒550 大阪市西区新町3-5-10
☎06-532-0171 FAX 06-532-0178

クリアハウス大阪 小川一義

愛 知 株式会社

(会員番号3004)

〒461 名古屋市東区筒井3-27-25
☎052-937-5931 FAX 052-937-7146

総合企画室室長 吉澤生武

株式会社 アダル

(会員番号3008)

〒816 福岡市博多区金隈47番地1
☎092-504-4141(代) FAX 092-504-3699

企画開発部 部長 高山和幸

株式会社 アイティーオー

(会員番号3002)

〒103 東京都中央区日本橋浜町2-61-5
☎03-3667-3411

企画開発部長 辻本紀敬

株式会社アトリエ・エイティエイト

(会員番号3009)

〒106 東京都港区六本木5-14-35
☎03-3588-8388 FAX 03-3588-8381

常務取締役 大坪 国男

株式会社 アイデック

(会員番号3003)

〒106 東京都港区西麻布4-16-13 第28森ビル
☎03-3499-4486 FAX 03-3499-4480

取締役営業本部長 藤本文明

株式会社 イトーキ

(会員番号3011)

〒101 東京都中央区銀座3-7-3 オーミビル
☎03-3566-5281

取締役 天野 明

株式会社 青島商店

(会員番号3005)

〒105 東京都港区芝大門1丁目1-11
☎03-3431-7788 FAX 03-3459-0878

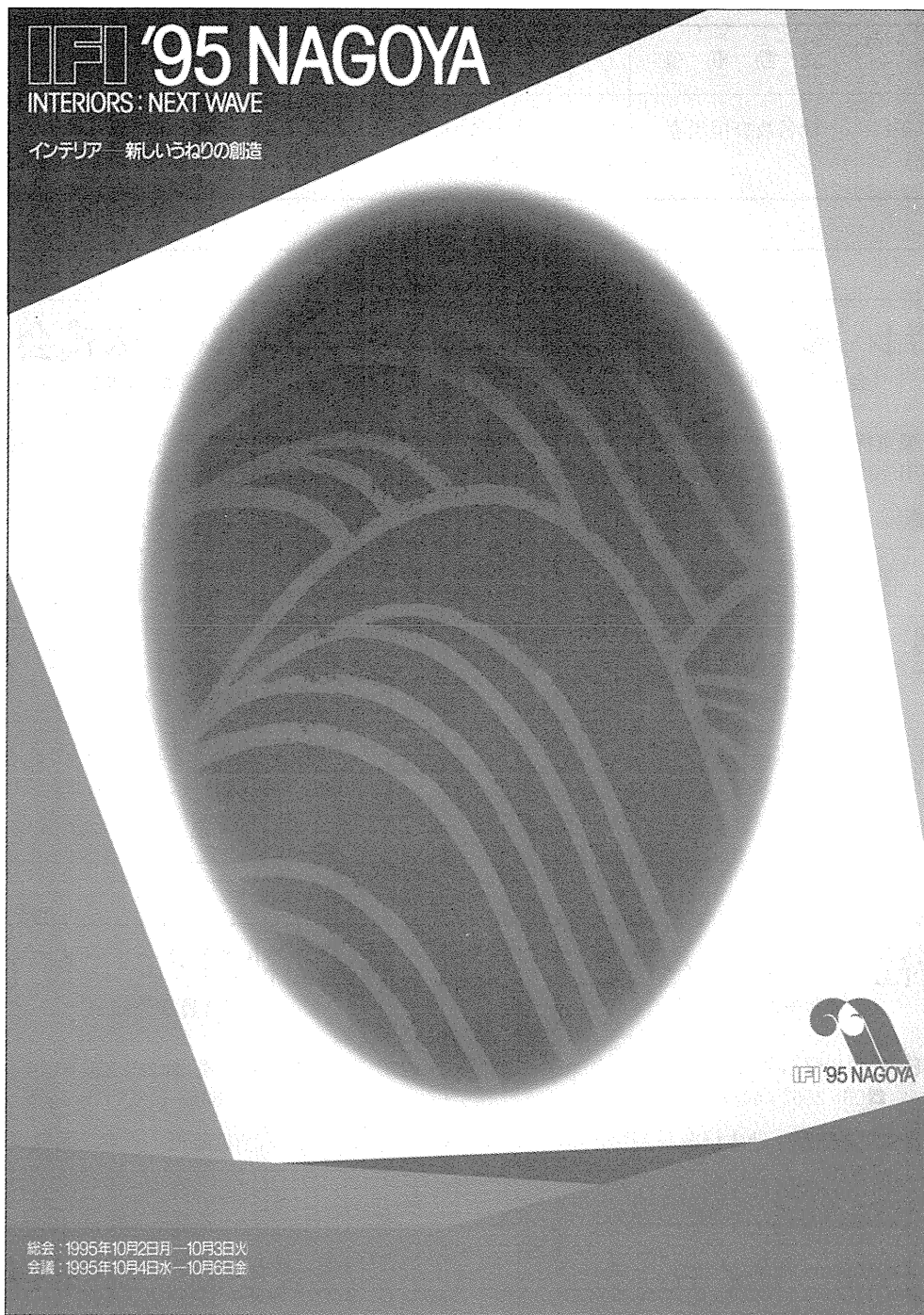
代表取締役 青島賢治

株式会社 INAX

(会員番号3012)

〒479 愛知県常滑市鯉江本町5-1
☎0569-35-2700(代)

環境美研究所 好川正朋



1995/8～9

1995年9月12日発行 (社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報1995年通巻188号)

編集／発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会事務局 印刷所・有限会社 コーエイ企画
〒160 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F
TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

グリーンデザイン・チェックリスト（前編）

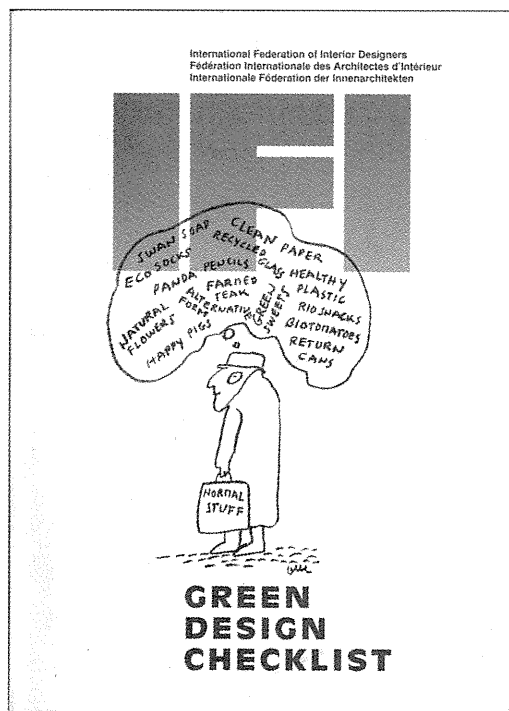
●会員の皆様へ

1993年「IFIグラスゴー総会」で発表されたIFI発行の「グリーンデザイン・チェックリスト」（環境保護に基づくデザインチェックリスト）を、本部・国際委員会の担当委員が日本語に翻訳いたしました。

JID NEWSに、2回に分けて掲載いたしますので、皆様のご参考にして頂ければ幸いです。

なお、原文をお読みにになりたい方は、本部事務局にありますので、どうぞご覧ください。

（担当／中川千早・李 泰久・山田隆二）



初めにこの「グリーンデザイン・チェックリスト」は、Keim Farben GMBH & Co KGの一部、カウム鋳物塗料（ミネラル・ペイント）（株）が出している原本に基づいています。これを使うことを許可してくれた方々に大変感謝します。特に、オリジナルテキスト著書 Trevor Taylor B Sc (Hons), Dip Arch, RIBA と、カウムミネラルペイント（鋳物塗料）（株）の専務ガレス・ディビーズに感謝します。

チェックリストは生態学的、環境問題の「警告（気をつける）」仕様書に対して完全に答えることを意図しておりません。しかし、良心的なインテリア建築士（イン

テリアアーキテクト）が、どんなプロジェクトに関しても設計図書を用意する際、覚えて置いて役に立つものであってほしいと願っています。チェックリストが取り上げている課題について考え、示された手引きに従うことによって、携わる者が壊れやすい環境保護に実際に貢献することになるでしょう。もちろん、必ずしもすべての忠告が、どんな状況でもふさわしく、又実用的であるとは限りません。しかし、問題が提起され、考慮され、責任ある解答が出されることが重要です。

チェックリストの中に含まれる文献目録（著者目録）は、未来の環境的繁栄に対する批判的な問題に関して、手に入る参考文献の完全なリストではありません。手に入る材料の宝庫のささやかな手引きとなってくれることは確かであります。記述者や使用者が、我々すべての者に可能な知識を最大限に役立ててくれるでしょう。IFIが会員の利用できる環境問題参考文献を作り上げるにつれ、最新のものになり続けるでしょう。

リチャード・リニントン

IFI 前理事長 1991 - 1993

この本は建築仕様書に取りかかるとき、環境問題に責任ある製品を選ぶためのデザイン過程で一助となるよう意図しています。「グリーン」考察は事実上無限で、このパンフレットはすべての解答を提供することを目的としていません。むしろ考察を引き出し、環境に最も被害の少ない製品を選ぶ助けとなるよう目指して（意図して）います。

1. 空気の質

健康

空気汚染が広がり、長い間悪影響をもたらしています。酸性雨、オゾン層破壊、地球の温暖化など、すべての継続的損傷を引き起こし、この先未来においてもこの損傷は続くでしょう。大気汚染のため、一般的に人間の健康にとって脅威となっています。光化学スモッグ、ベンジン、鉛、有毒物質排出の局地集

中、偶発的又は付随的核事件による放射能流出など、すべて大気汚染の原因になっています。

室内空気の質（IAQ=INDOOR AIR QUALITY）は、やはり健康上、建物の室内環境管理システムを総合的に注意深くデザインし、正しく実施すれば大いに効果があります。建築デザインは、それを使う人の健康と福祉を考慮しなければなりません。空気の質を考慮に入れることは絶対的です。

デザイン

建物の内部の環境は、適切なデザインによって健康な状況を維持できます。このことはデザインの基準に、良い空気の質の大切さを認識する必要を含みます。

自然光と換気は、もし条件が許すなら好ましい、しかし、ある場合には、冷暖房（エアコンディション）や機械的換気も避けられないでしょう。全・冷暖房空間をデザインする場合、質の良い空気、最小のエネルギー消費、そこに住む人にとっての適切な快適状況を、注意深く制御しなければなりません。

メンテナンス

機械的環境コントロールシステムにおける日常メンテナンスは、効率、安全、省エネなどを継続するために欠かすことができません。例えば規則的に気を配らなければならない、ろ過植物のようなものの場合、その置き換えが簡単にできるよう、アクセスの良さをデザインの段階で考慮することは基本的条件です。日常的メンテナンスを怠ることは、もしアクセスが悪ければ必然的に起こり得るでありましょう。

☐ チェック

空気の質や建物使用者の健康面でデザイン上の責任がいかチェックしなさい。

2. 代替エネルギー

風力

風力の動力化によって電力を起こすことは、ここ当分の間、経済的にかなり有効であるので考える価値があります。建物外壁を高度に断熱し、エネルギー消費を最小限にすべきです。そうすれば風力

による電気の使用は、地下燃料（石炭）消費を下げるために有効でありましょう。

風力発電機は大きな機械で、美的観点から、かなり視覚的ショックを与えるかも知れません。不適切な場合には、視覚汚染にすらなるかも知れません。この観点から、デザインの早期の段階から、関係当局と話し合うことは不可欠です。

太陽熱エネルギー

太陽エネルギーは、建築デザインによって、積極的にも消極的にも使えます。積極的採集は、熱交換手段（例：水）を使って熱を伝導的暖房システムのための予熱水として使うことができます。（次にボイラーが作動可能なところまで温度を上げます。）そうすることによって、ボイラーの燃料消費を下げる、これは、大量の水を少ない温度差で上げる必要がある場合（例：水泳プール）理想的です。

消極的太陽熱エネルギーは、建物を採集機として用い（しばしば）空気を熱に変える手段（媒体）として用います。温室やアトリウムが、太陽熱エネルギー採集器／交換器として採用され、できた熱は建築物全体に貯蔵されます。このタイプのシステムは、デザインの基本に関わるし、又建築物のオリエンテーションが決定的な要素となります。

熱ポンプ

熱ポンプは、回りから熱を引き出し送り出す熱交換器です。大抵、冬暖め、夏冷やすようにデザインしてあります。エネルギーを確かに消費する、従って入って来るエネルギーと、出て行くエネルギーのバランスが、エネルギーの視点から有効かどうかで決定します。

☐ チェック

代替エネルギー源の有効性と、機器を美的観点からチェックしなさい。

3. エネルギー節約（保護）

断熱

エネルギー保護のために、熱損失を少なくすることが重要です。建築物の外壁の高度の断熱が欠かせません。最新の断熱材料や技術を調査してください。また、それらの人工材料が、健康に害がないか安全性もチェックする必要があります。

管理

ボイラー装置取り付けにおけるエネルギー管理システムを、コンピュータで制御することにより、短期間でその費用を取り戻すことができます。つまり、エネルギーを相当節約することができます。

使用者の便宜を考えると、建築使用者が、例えば、手動のサーモスタットやスイッチを使って、自由に調整させるよりも、コントロールシステムに情報を集約するセンサー網に頼る方が、使用者の使いやすいレベルを保ちやすいのです。

照明

照明はエネルギーの大きな消費源ですが、しばしば見逃されてしまいます。効率の良いデザインとシステムを注意深く選ぶことによって、かなりエネルギー節約の効果を上げることができます。既存の建物では、既存のシステムをデザインし直す余裕が無ければ、最新の省エネタイプのランプに取り替えることも有効です。照明から発生する熱は、暖房システムに影響するので、照明計画と空調計画は、個別にデザインすべきでなく、一緒に考えなければなりません。

暖房

これが、建物の中で重大なエネルギー消費源です。暖房システムを効率よくデザインすることが重要であり、建物デザインの全体の中の一部として、考えられなければなりません。燃料供給、主要燃料の選択、設備コントロール、管理、維持、更新など、あらゆる面からシステムを、デザインの段階で考えなければなりません。少しでも可能なら、エアコンディショ式（システム）は避けるのが最善です。エネルギーを膨大に消費するばかりか、他の健康問題を引き起こすかもしれませんので。

熱回収

廃棄熱が大気に放出するのを、最小限にすることによって、エネルギー消費を減らすようにデザインし、熱回収装置をデザインの段階から機械による換気、エアコンディションや暖房システムに適用してもよいです。理論的には回収（戻す）する期間は長過ぎるかも知ませんが、化石燃料（石炭）消費を減らすことを主要目的と考えるべきでしょう。

□チェック

エネルギー消費全体の点から、建物の外壁や暖房システムの効率をチェックしなさい。

4. 鉛

添加剤

燃料の鉛添加剤（テトラエテル鉛）が、都市に特に危険な濃縮度となって、世界中大気の鉛汚染をばらまいてきました。塗料の鉛は、乾燥用の溶媒と共に大気に蒸発していくことになります。多くの国で塗料の鉛を禁止する法律がありませんが、もっと安全な材料が入手できるようになって、時がたつにつれ製造業者が使用しなくなってきたため、手に入る材料の大部分に、もはや見られなくなっています。古い塗料を剥がすときには、鉛の粉を吸い込むのを防ぐために、マスクを使うべきです。鉛を含む塗料は未だ入手できますが、その使用は、それが特別な場合のみに限定されています。

配管

鉛水道管やタンク内張り用には、鉛は既設の保全維持以外には、もはや使われていません。飲料水用の配管には、例え既設の保全工事だとしても、他の材料に変えるべきで、銅管の連結にも鉛を使わない方法をとらなければなりません。屋根の雨樋の接合には、鉛が使われても良いでしょう。亜鉛や銅は、鉛ほど使いやすくありません。鉛を使うときは吸い込んだり、食べてしまわないように注意しなければなりません。

□チェック

燃料、塗料、配管で鉛を避けるように、屋根材料として鉛を使うときは注意するようにチェックしない。

5. 化学製品（化学薬品）

塩素(クロール)

これは、作る過程で汚染を引き起こす化学薬品です。塩素（クロール）含む製品を廃棄した場合、ダイオキシンのような非常に有毒な汚染物質を作り出します。PVC化合物の形、例えば電気絶縁材として、塩素（クロール）は建築業界で広く使われています。この使用は今のところ避けられません。

リンデイン（農業用殺虫剤）、PCP、TBTO

これらは続けて使うと、有毒性が疑われる化学薬品です。リンデインは殺虫剤、PCP（ペンタクロロフェナール）とTBTO（トリビュチルティン オクサイド）は殺菌剤です。これら3つの化学薬品は、すべてこれらを使うときに用いる溶媒と共に、森林保護に必要なものです。この3つは少なくとも17ヶ国で使用を禁止しています。

これらの化学薬品に触れると、長い間にどんな影響を与えるか定かではありません。同じく有効で安全で、環境的にやさしい代替品は、たやすく見つけれられません。製造業者は積極的にこの問題と取り組んでいます。

□チェック

全ての製品の有毒化学薬品をチェックし、さらに安全な代替品を探しなさい。

6. 熱帯雨林破壊

影響

熱帯雨林伐採は、地球の気候の破壊につながります。熱帯の固い材木を採るあまり、この破壊に拍車をかけ、経済的要請による圧迫が、開発途上国の人々に、自然資源を搾取され過ぎる状況に、甘んじることを余儀なくしています。

抑制

植林計画及び森林保護管理だけが効果的の抑制手段です。現在では、政府と伐採者でさえこのまま破壊を続けると、最善の利益ばかりか、熱帯雨

林が今破壊されている進度を遅らせるのに、長い期間が必要なことに気付いています。

建築家とデザイナーは、温帯の堅木を使い、正しく管理されている保護林や農園のものだけを使うように主張すべきです。法的に供給源を確認することは、現在のところ困難です。しかし正しい管理と確認に向けて、あらゆる方面の人々が、長い目で努力を継続することが大切です。

□チェック

チェック堅木は保存源から取るように主張しなさい。

7. 溶 剤

有毒性

溶剤は他の材料を溶かすもので、家庭用産業用に大量に見られる化学薬品です。塗料、接着剤、清掃材、結氷防止（除氷）装置、ラッカーなど、すべて溶剤が含まれており、親材料を必要なところに運んだならば蒸発してしまいます。この蒸発段階で、その有毒性が健康問題を引き起こすのです。長い間これに晒されると、腎臓や肝臓に害を与えます。溶剤のあるものは発癌物質の疑いがあり、多くは可燃性が高く、溶剤によっては、例えばメテル、クロロフォルムを作り出し、オゾン層の破壊の誘因となります。

塗 料

すべての塗料製造業者は、少数の専門家の使用を除いて、塗料に含まれる鉛の使用を段階的に廃止してきましたが、溶剤は必要として残されています。その製品にどの溶剤が使われているのか、正確には製造業者が示すことはありません。

どんな塗料でも溶剤を含んでいるものは直火を避け、吸い込んだり皮膚に触れたりしないように、準備中や使用中に、適切な換気を守るように用心しなければなりません。水性塗料を可能な限り用いなさい。

□チェック

溶剤に晒されないように、使うときは適切な換気を守るようにチェックしなさい。